

リポート  
**Report**

大磯町郷土資料館だより

2002・3・31

22

もくじ

- |               |   |
|---------------|---|
| ◇堂後下横穴墓群の発掘調査 | 2 |
| ◇行案内          | 4 |
| ◇表紙の説明        | 4 |
| ◇資料の受入        | 4 |



## 堂後下横穴墓群の発掘調査

平塚学園高校のグラウンド(旧ジョンソン工場)から大磯駅方面に直進すると、ちょうど城山トンネルにさしかかる手前の北側丘陵に、無数の穴が開いていたことを記憶されている方も多いと思います。

現在は削平され、見る影もありませんが、無数の穴の正体は実は横穴墓と呼ばれる、古墳時代後期の人々のお墓だったのです。

横穴墓は古墳と同様、古代の葬制のひとつで、5世紀後半に九州地方に発生し、6世紀後半には関東地方にも伝播しましたが、広く普及したのは7世紀以降のことです。山腹の斜面に横から穴を穿ち、内部を整え、埋葬用の穴としたもので、砂岩や凝灰岩など比較的軟質の岩山が選ばれました。

大磯町はそうした立地条件に恵まれていたらしく、77群477基の存在が確認されていて、神奈川県はもとより、全国的にも分布密度の高い地域となっています。

ところで、大磯町の遺跡台帳によれば、堂後下には13基の横穴墓が存在するのになっていますが、これは池田彦三郎・鈴木 昇両氏によって昭和20年代に確認されていたものを基本として作成されたもので、両氏の一連の業績が引き金となり、1955年(昭和30)には、神奈川県教育委員会により3基の横穴墓が発掘調査されています。これは予備調査の段階で横穴墓内部に線刻画の存在が明らかになったため実施されたものでした。

その後、1978年(昭和53)には遺跡台帳整備事業に伴い現地踏査が行われ、台帳どおり13基の横穴墓が確認されました。また、1990～1993年(平成2～5)には立正大学による遺跡詳細分布調査が実施され、同様の結果が得られています。

このように、堂後下には古くから13基の横穴墓が口を開けていたことが知られていたわけですが、このたび運動公園の建設に伴い、計画段階において、この部分が駐車場予定地となり、種々協議した結果どうしても計画変更ができなかったため、やむを得ず発掘調査を実施して記録保存することにしたわけです。

実際の調査は、1999年(平成11)と2001年(平成13)の2回に分けて実施されました。その結果、右頁の全体図に示したとおり、18基の横穴墓の存在を確認することができました。

一般的に横穴墓の平面形態には、矩形や逆台形、フラスコ形などがあり、天井の形態にも、ドーム形あるいはアーチ形があります。また、内部の構造にもいくつかの種類があり、こうした要素が複雑に組み合わせ

て成り立っています。そして、大磯を含む周辺地域では形態面に限って言えば、概ね矩形平面・ドーム形天井の横穴墓が古く、次第に簡略化がすすみ、逆台形・アーチ形天井の横穴墓が新しいという変遷過程が認められています。

そこで改めて本横穴墓群をみると、矩形平面・ドーム形天井の横穴墓(1～4・17号)は中央から右手に位置しており、逆台形・アーチ形天井の横穴墓(5,9～13,18号)は左手に集中しています。また、両者の間には矩形平面・ドーム形にもかかわらず、小型化したもの(7,8号)や平面が三角フラスコ形で、アーチ形天井のもの(6号)があります。このことから、少なくとも時期を異にした3つの造営集団の存在が想定されます。

遺物の面では、ほとんどの横穴墓が既に開口していて、宝永火山灰(1707年)が堆積しているものもあり、内部が攪乱されていたため、点数は多くありませんでしたが、人骨とともに須恵器や土師器、直刀・刀子・鉄鎌などの鉄製品、小玉・管玉・切子玉・勾玉などの玉類、耳環が出土しています。その他、直接横穴墓に関連の無い、陶磁器片や古銭、ガラス埴なども出土しています。

内部の特徴としては、礎数があげられます。これは拳大の丸い石を敷き並べたもので、通常この上に遺骸が置かれます。また、線刻画もいくつかの横穴墓で確認されていますが、中には電話番号やイニシャルなど明らかに悪戯と思われるものもあります。

いずれにしても、堂後下横穴墓群は、6世紀後半に造営が開始され、7世紀後半まで存続していたものと思われませんが、ここに葬られた人々は、谷の出口にあたる馬場附近に住居を構えていたものと推測されます。

### 〈写真・図解説〉

#### 〔第3号墓 線刻画〕

船や人物、植物など様々ありますが、既に開口していたので、描かれた時期や横穴墓との因果関係は不明です。

#### 〔第9号墓 側壁〕

内部を肋骨状に仕上げている横穴墓で、大磯町では国府地区に多くみられます。

#### 〔第17号墓 見返り〕

横穴墓の内部から入り口方向を撮ったもので、人ひとりが辛うじて通れる大きさであったことがわかります。

#### 〔第9号墓 遺物出土状態〕

完形に近い大形の須恵器(横瓶)です。閉鎖施設の真裏に位置しています。

#### 堂後下横穴墓群全体図

1～4,6,14～17は1999年、5,7～13,18は2001年の調査です。



第3号墓 線刻面「船」(東→)



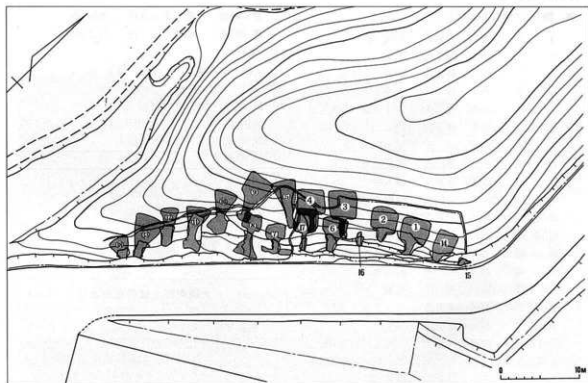
第9号墓 側壁(北西→)



第17号墓 見返り(西→)



第9号墓 遺物(横瓶)出土状況(北→)



堂後下横穴墓群全体図(1/500)

## 【行事案内】

みなさんの参加をお待ちしています。詳しくは町広報をご覧ください。館へ直接お問い合わせ下さい。

### ▶文化財特別公開

#### 『新発見 高来神社蔵木造神像群/ 修復完工 慶覚院蔵木造仁王像』

5月19日(日)～6月23日(日)

平成12年、大磯町高麗の高来神社神輿堂から未調査の木造神像群(11躯および残欠)が発見され、破損の激しい男神像首裏部と女神像頭部残片に弘安5年(1282)の紀年と「勅達聖玄西」の墨書銘が確認されました。神奈川県内でももちろん、我が国の神像彫刻史上においても貴重な、鎌倉時代の本格的な神像彫刻を初公開いたします。

また、同じく高麗の慶覚院に造られている木造仁王像は、鎌倉仏師による中世作に学んだ近世初期の作と思われる。県内に残る本格的なすくれた仁王像とし

て、また、廃絶した高麗寺の遺物としても価値の高いものです。平成12年には保存修理が行われたことから、修復完工記念として公開いたします。

### ▶ミュージアムトーク

文化財特別公開にあたり、展示解説をおこないます。  
日時：6月2日(日) 午後1時30分～2時30分  
場所：大磯町郷土資料館研修室および企画展示室  
講師：神奈川県立歴史博物館専門学芸員 薄井和男氏  
申込：不要、当日研修室へ(先着50名)

### ▶海の教室「大磯御船祭見学会」

海をメインテーマに、さまざまな視点をもうけて「海」を考えます。今回は大磯御船祭の見学会です。

日時：7月21日(日) 午前10時～12時  
場所：大磯町立図書館大会議室および現地見学  
申込：不要、当日図書館大会議室へ

## 【表紙の説明】

堂後下横穴墓群遠景(平成13年度調査分)。写真撮影した時点では周囲が削平され、独立丘の様にみえますが、元来は舌状に延びる台地の先端に位置しています。「堂後下」という字名は、近年では「ドウゴシタ」と呼ぶ事が多いようですが、「ドウノシロシモ」が本来の名称と考えられ、横穴墓群の名称も後者を用いています。

## 【資料の受入】

(寄贈) ご協力ありがとうございました。

寺坂	湯口	正毅氏	勝腕 他
生沢	小島	節子氏	蚊帳
生沢	松井	静江氏	衣類
高麗	藤田	輝子氏	スライド 他
東町	渡邊	恵子氏	マッチ箱(陶製)
大磯	飯田	善雄氏	絵はがき
大磯	木村	純子氏	昆虫標本 他
大磯	石井	倫江氏	市松人形
大磯	中野	直美氏	雛人形
大磯	飯田	福信氏	貝標本 他
東小磯	新見	紀雄氏	巻軸
西小磯	柳田	晋司氏	庚申講資料
西小磯	谷久保清彦氏		餅搗き機 他
西小磯	渡邊	大三氏	耐火煉瓦
国府本郷	添田	喜一氏	書籍
国府本郷	加藤	廣美氏	ランドセル 他
国府新宿	杉山	レイコ氏	羽子板
国府新宿	加藤	友造氏	ショイバシゴ 他
大磯親友会			イノシシ骨格標本
二宮町	西山	敏夫氏	漁具 他
平塚市	滝山	昭枝氏	編み機

茅ヶ崎市	鈴木喜八郎氏	書籍 他
横浜市	高橋 諄一氏	絵はがき
(採集)		
大磯・東小磯		土器、煉瓦 他
(移管)		
経済観光課		掛軸 他
美化センター		カメラ 他
健康福祉課		土質標本
学校教育課		土質標本 他
(購入)		
忠敬堂		地形図
鈴木屋		お盆セット
(寄託)		
南本町		随神、屏風

〈寄託期間：～H14.3.31〉

Report -大磯町郷土資料館だより- No.22

平成14年3月31日

編集発行 大磯町郷土資料館

〒255-0005

神奈川県大磯町西小磯446-1

TEL 0463 (61) 4700

FAX 0463 (61) 4660